



発行所
〒924-8544
石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
六星同窓会
印刷所
印刷
能登

幸福度



会長
杉山 栄太郎

夢と希望を生涯忘れる事なく、同窓会の皆様にはそれぞれの分野で、ご活躍の事と存じます。大いに頑張つて頂く事を願っております。

現政権も来年度から単に経済的指標だけではなく幸福度を含めた経済指標が発表されるとの事です。誠に意義ある事だと思っております。

ります。

誰しも苦勞や苦惱は大なり小なりあると思います。これらを利口に夢と希望に置き変えて行く事が上手な生き方だと信じております。

同窓生皆様の健康に留意され、一層のご発展をお祈り致しております。

「翠星高校よ永遠に」



校長
藤田 宣彦

六星同窓会会員の皆様方には、日頃より本校の教育活動に対し、

ご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

私ごとですが、昭和五十一年に当時の柳田農業高校に奉職して以来、三十六年間の教員生活の中で松任農業高校、そして翠星高校で二十四年間お世話になり、この三月に退職を迎えることになりました。とりわけ、最後の二年間は親子二代の校長として勤務させていただきました。沢山の同窓生の皆様方から温かいご指導をいただき、本当にありがとうございました。

昨年にはこの紙面を通じまして、「松任農業高等学校百年誌」等から、本校の「歴史と伝統のすごさ」について学んだ事を書かせていただきました。しかし、残念ながら生徒たちは勿論、現在の農業科の先生たち自身もそのことについて、ほとんど理解していません。ほとんどの先生が、最後の日までは、農業科の先生方に少しでもそのことを伝えたいと思っております。

さて、私は教頭時代から、数多く県内外の六星同窓会総会に参加させていただきました。特に、関東支部総会や関西支部総会、東海支部総会に出席する度に、長年故郷を離れていることもあると思いますが、卒業されて半世紀以上もたった今でも、参加される同窓生の皆さんの母校に対する熱い思いに、感動するとともに、大変頭が下がる思いをして来しました。今年も各支部総会に出させていた

き、それぞれ懐かしいお顔を拝見させていただきました。年々、どの支部も総会への参加者集めに、そして会員の維持・増加に役員の方々が大変ご苦勞されている様子を直に拝見し、私自身が何も応援できないことに大変申し訳なく思っております。

こうした皆さんの母校に対する熱い思いは、時代背景もあると思いますが、在学中に培われた「不屈の松農魂」の精神に象徴されていると思っております。農業を舞台に教師も生徒も自然を愛し、土を耕し、昼夜を問わず作物や家畜の世話をし、また、疲れた放課後には相撲や駅伝など部活動に精進する中で、お互いに励まし合い、応援し合うことから連帯感が生まれ、それが学校愛（母校愛）を生み育んできたものと推察いたします。恐らく、この精神は生徒も教師も「松農人」になることから、生まれたものと想像します。

大正時代に岩手県の花巻農学校では、有名な宮沢賢治が教鞭を執っていたであろう頃、本校でも沢山の名物先生がいたことが百年誌にも詳しく書かれています。「自分の著書をテキストとして授業する教師や高度の教材を十分マスターして教壇に立つ人が多かったので、概して生徒も教師を信頼して真剣に授業を受けた。」と書かれています。まさに、そこ

では現代の大学の様な授業が行われていたことを窺い知ることができそうです。

どんな時代にあっても人類が生きるためには、食を生産する農業は決して無くなることはないと思っております。そして、それを支える農業教育も決して無くなるはずはありません。たとえ内容や形を変えてでも、本校は次の創立百五十周年、二百周年を目指して歩まなければならないと思っております。そのためには、これからは「学校、保護者、同窓会」の三本の矢のそれぞれの結びつき（絆）が益々重要になって来ると思っています。

校長室には歴代四十三人の校長先生の顔写真が、壁に掛けられています。校長室を訪れる人たちのほとんどが、その光景に圧倒され驚かれます。この二年間は常に四十三人の先生方の眼が、私を見守ってくれと同時に、無言の叱咤激励をしてきていたような気がいたします。

終わりに、六星同窓会の益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご活躍を祈念するとともに、今後とも本校への一層のご理解とご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。長い間、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

登山同好会を立ち上げて

登山同好会 顧問 根石 修

本年度より活動を認めて頂いた登山同好会を指導している根石です。藤田校長ほか本校職員のみならず、側面から様々にご支援頂いた同窓会の皆様、この場を借りて感謝を表したいと思えます。

昨春の新聞記事にもなったので記憶にある方もあると思いますが、本校には獅子吼高原の一角に同窓会所有の山林があります。これを再び利用できるものだろうかという思いが同窓会諸氏にあり、藤田校長もこれに応えたいと考えていました。

「演習林を何とかできないだろうか」という話をきかされたとき、私自身、登山だけでなく季節折々に山に分け入り、新緑から紅葉、山菜やキノコを集め、とにかく森や山に入ることが大好きなので「ぜひ取り組んでみたい」と思いました。生徒も4名(現3年生)が賛同してくれました。

彼らと一緒に何度か演習林に向かいましたが、転げ落ちてしまいそうな急斜面を横切つて、ようやくその一角にたどり着くのがやっとというような場所でした。これを、今後どう利用するかとなると前途多難です。

演習林からは、雄大な景色を目にすることが出来ます。鶴来の街の背後に立ち上がる高みからは、日本海に流れ下る手取川とその左

右に広々と延びる田、その中に人々の暮らす集落や町がそこに固まってある様子が一望できます。春、田



植えのために水の入られた水田は、平野が二面巨大な湖に変わってしまったかのようです。そこに、日

没の赤い陽が映るような時間ならなおさら、人の営みと自然の調和が感じられて心を打ちます。演習林に開つた生徒達を中心となつて登山同好会の立ち上げに賛同してくれたのは、そのような経験によるものだと思つています。

さて、同好会の活動として山へ登るうにも、まったく何も無いところからのスタートでした。ザック、登山靴、雨合羽など、近くでの登山にも様々な道具が必要となります。生徒達に個人で負担させるわけにも行かず、顧問の田端先生と私の個人所有物や、他校で使われなくなつた古い道具を借りたりして、何とか山に行く体勢を整えました。十分とはいえない装備でしたが、4月から週末の山行を繰り返しました。6月に行われた高校総体にもオープン参加で出場できました。

残雪を踏んで登つた、奥獅子吼山から遠く望んだ白山の雄大さ。父親から譲られた登山靴で参加したものの、途中で靴底が壊れてし

まい引き返さざるを得なかつた口三方山。初めて

の白山は降りしきる雨の中、ようやくたどり着いた室堂も寒く



て逃げるように帰つたこと。わずかな活動期間ですが、印象深い登山をすることができました。

生徒達は山行を重ねながら体力をつけ、夏には、沢登りにチャレンジしたり岩場に行つてみたり、重い荷物を担いで登るだけでない登山のバリエーションを体験しました。特に沢登りは、暑い日に冷たい川で泳いだり滝を滑つたり、楽しい時間を過ごすことができました。

私たちの活動の目標は、演習林をはじめとする里山での活動を通して、身近な森や山を管理していくことの大切さを学ぶこと。総合的な登山の力をつけて、北アルプスなどの高峰を安全に歩き通競るようになること。さらに、総体で優勝して高校登山の全国大会へ出場を果たすことです。

初めての夏山合宿では、白馬大雪渓を上り詰めて白馬岳への登頂を目指しました。豪雨の中でのテント設営と炊事をしなくてはならない、悲惨な山行になつてしまいました。期待をふくらませながら準備してきた夏山合宿でしたが、この状況で白馬大雪渓を登るのは落石の危険が大きいと判断し引き返

しました。最近になって、「白馬の頂上、行つてみたかったなあ」「槍ヶ岳、行つてみたい」などと聞くようになってきました。登れなかつたことが、かえつて頂への想いを強めたように、来年に向けていい経験になつたと思つています。

もうひとつ、新人大会の模様を記しておきたいと思つています。今年には薬師岳を登山する年にあたりました。例年、天候に恵まれないことの多い新人大会ですが、今回は立山から槍ヶ岳・穂高と北アルプスの大展望を楽しみながら歩くことができました。参加者全員が頂上に立つことができ、薬師岳からの360度の大展望はつらい登りのこととはすつかり忘れさせてくれました。



私たちが自身驚いたのですが、この大会で優勝することができました。これまで行つてきた練習の成果が出たということで、一層の励みになりました。新人大会後は、雪の上を歩いたりたき火をしたり、登山のいろいろな楽しみを体験できるように心がけています。

海外産業教育事情 研修に参加して

石川県立翠星高等学校 教諭 谷 正一

平成二十三年一月六日〜一二日の七日間にわたり、全国産業教育振興中央会の主催によりヨーロッパのスウェーデン及びオランダの2か国を訪問し、産業教育情勢について見学研修させていただいた。その概要についてご報告いたします。

(1) スウェーデンの教育事情

スウェーデンは、北欧のスカンジナビア半島に位置する、人口900万人余り、面積は45万km²の立憲君主制国家である。スウェーデンでは、6歳から1年間の就学前学級のあと7〜16歳の義務教育、3年間の高校を経て、大学進学や就職をしている。スウェーデンは、以前は、北欧の中でも高い教育レベルを持っていたが、1980年代のEU加盟問題、移民の増加によりスウェーデンの教育が孤立し、産業技術の低下により失業者が増加した。近年、手に職をつけ、技術革新に対応する職業教育、移民のスウェーデン語教育及び成人教育が見直され、時代に対応した教育改革が行われている。生徒は、成人であつても学校に通うことで教育手当が支払われ、金銭的な援助がされている。スウェーデンの研修先：総合制職業高校、自動車専門高校、



六星精神よ 永遠たれ

竹本 敏晴

昭和四十五年卒 農業科

「あれから40年」。みなさんもよくご存知の、毒舌漫談家綾小路きみまろの口上の一つ。続いて寄席前列のオバちゃんを指差して、「あなたにも若い頃があったのですよ。そんな顔でも」と扱き下ろして笑いをとる。身に覚えのある部分をえぐられ、つい腹を抱えて大笑いされた方も少なくないと思います。

将に「あれから40年」です。小生らが母校を卒業した昭和45年春から、農政史上にも大きく刻まれる米の減反が始まりました。そして今、お陰様で還暦を迎えました。

そんな40年目の昨夏、六星同窓会の金沢支部総会にお招き頂き、先輩の皆様の前でお話をさせて頂く機会を与えられました。さほど社会的な活躍をしている訳でもない小生如きに、白羽の矢を立てて頂いたのは、かつての恩師で現在金沢支部長の大蔵捷直先生です。

県下でその名を知られた六星の先輩の前で、多少なりとも耳を傾けてもらえる話でなければならぬと考えた末、『六星 土に人に―松任農学校の「世紀」―(昭和56年刊行)の、トップバッターとして記載されている亡父平一の話をする事にしました。』
とは言っても、父の米作日本一

受賞や、農家として初めて国の米価審議委員になった等、鼻にもつかないオヤジ自慢は、誰も聞きたくもないし、振りかぶって父子論を語る能力もありません。そこで今なら時効成立(50年経過)で、関係者の多くの方も故人である事から、暴露モノまがいの『米価大会秘話―知られざる舞台裏―』にしました。

米価運動は、戦後の稲作を語る上で、忘れることのできない農民パワーが結集し、大いに輝ける一ページであることは、衆目の一致するところであろうと思います。中でもひと際目立った大会は、昭和37年6月27日、金沢の護国神社で開かれた時であったと言われています。

この大会のハイライトは、会場を埋め尽くした県内各地の農民の一部が、緊急動議を訴えて壇上を占拠した上、動議の檄文を読み上げ、その動議の採択を求めて、主催者とこざり合いになったというもので、翌日の地元紙も大々的に取り上げたと聞いています。

この騒乱劇で、父は裏方と主役の2役をしました。当時地元牛島農協(現在JA能美)の理事であった父は、組合長ら役員とともに、集落の若手農家を集め、壇上切込隊と壇上占拠隊を編成し、自らは動議文を読上げる段取りをし、当日大型バスを仕立て、会場へ乗

入れたのです。

先に「大会秘話」としたのは、この一連の仕掛人が、当時地元から選出されていた大物先生(世間ではこんなケースでは、黒幕とも言う)であったことです。主催者の県農協中央会と十分作戦を練上げ、県内農家の中から、農政活動に熱を上げ、かつて戦地で将校として実戦経験のある男を抱き込んだというところでしょうか。母の話では、度々金沢へ呼び出されていたが、中味は絶対話さなかつたようです。そして時は流れ、多くの人の記憶から、「米価大会」すら忘れ去られようとしています。

それだけに「今さら何を」と思われた方もありますが、当時優れたリーダーの下、農民エネルギーが全国に広まり、大きな運動として、多くの成果をもたらされたことを思う時、昨今の国内に重く立込める閉塞感を打破るヒントにならないかと思う次第です。

新しい時代がどんな世になろうと、どんな仕事にしようかと、先輩たちが築いてきた六星魂と、揺るぎなき誇りを胸に、大いに飛躍されることを御祈念・御期待するものです。



米価大会は農民パワーのシンボルとして全国に広がった。写真はS52年6月 松任にて

COOP流通センター

(2) オランダの教育事情

オランダは、4歳から12歳までが基礎教育があり、12歳のテストでどの学校へ行くかが決定し、中学・高校に当たる部分が、4、6年に分かれる。最初の2年間は橋渡しの学年であり、能力別にクラス分けされているが、最もレベルの高いVWOクラスは、合計6年の課程を終え、全国共通試験を受け、大学へ進学する。レベルの順にHAVOは、5年の課程で高等職業訓練校へ、MAVOは、4年の課程で中等職業訓練校へ進学する。他に障害を持った生徒はLBOで4年の課程を行い職業訓練校へ進む。高等職業訓練校卒業は、日本の学士にあたり、VWOから大学を卒業すると修士に当たる。橋渡しクラスの共通科目は、数学、外国語(英語、仏語、独語、オランダ語)、宗教であり、HAVOでは、科目数が増え、理数系と文系に分かれ、VWOでは、さらにギリシャ語、ラテン語の授業がふえる。教材の基準はなく学校独自で決定しており、全国共通試験の合格率が、インターネット



上に公開され、学校の評価になっている。

オランダの研修先: Hermann Wesselink College (VWO)、MAVAクラス)、水産専門学校、農業専門学校

感想 日頃忙しい日々から離れ、海外の異文化を体験できたことは今後の教育活動に参考になりました。これらの経験を生徒や職員に還元できるよう今後とも精進していきたいと思います。



平成23年 財団法人農業教育振興中央会 教員海外産業教育事情研修

支部だより

関東支部

昭和三十六年卒

東 建路

関東支部第15回総会を平成23年11月20日(日曜日)にJR四ツ谷駅前の主婦会館にて、母校の藤田学校長、田端先生のご列席を戴いて開催いたしました。

村松支部長と来賓の藤田学校長のごあいさつ後、議事に入り、提案議題全てが承認可決されました。

今回の提案議題で、支部の会則をより明確な内容に改定致しました。

更に、役員任期満了に伴い、支部長に村松邦祐氏(再任)、副支部長に小林好晴氏(新任)が選任され就任いたしました。

また、支部長より、幹事1名、理事4名、監事2名、顧問4名の方に委嘱されました。

節目の第15回目の総会を祝し、更なる会員数の増員を図り会の発展を資するため、本部より賛助金を頂戴して、平成12年度の同窓会名簿に基

つき関東地区居住者約280名に對し下記の事業に取り組みました。

1. 関東在住者の会員名簿の整理並びに会員の掘起。
2. 関東支部15年間の支部活動のあゆみの足跡をパンフレット化、会員各位並びに本部事務局、各支部長に配布。

この結果、会費を納付された新規正会員が20名増となり、既存を含めて会員総数50名以上となりました。

総会終了後に、今日の支部発展に寄与されました、顧問の奥秀夫氏、山本博氏、正見彰氏に支部長より慰労の記念品が贈呈されました。

懇親会には、MRO合唱団の歴代の各校歌をBGMにして、約半世紀前の青春の高校生活とふる里と松任と初参加されました2名の方の話題に新鮮さを感じ、佳境のうちにお開きとなりました。



関西支部総会

昭和二十四年卒

宮岸 岩夫

六星同窓会関西支部平成23年度の総会が去る10月20日(木)大阪市南船場「和楽」で盛大に行いました。

総会は、徳井外志雄副支部長の

司会で始まり、続いて宮岸岩夫支部長からの挨拶と来賓の藤田宣彦校長より祝辞と母校の近況報告を頂戴しました。

議事は、平成22年度事務報告、同年度収支決算報告、規約改正等の提案に質疑応答、全員による慎重審議の結果、いづれも提案どおり満場一致で承認され会議を終了しました。

その後、山岸良子副支部長の乾杯の音頭で懇親会を開き、松永潔副支部長の再会を誓い散会しました。

東海支部

昭和三十六年度卒

山本 満男

平成二十三年度は三月十一日東日本大震災があり、東海地方は台風十五号に依る庄内川の堤防の決壊の大被害、忘れられない一年となりました。

私達六星同窓会東海支部としては十年の節目を無事終えることが出来、今年私達世話人一同は内容等を検討し、五月二十六日(土)「ホテルサンルートプラザ名古屋」にて、益々の親睦と絆を深め、多数参加を期待して開催させて頂きたいと思っております。



金沢支部総会

昭和五十年卒

稲本 勝彦

平成22年7月2日(土)金沢都ホテルにて総会が開催されました。会員38名が出席、高木伸也事務局長の司会で、大藏捷直支部長、藤田宣彦校長が挨拶、その後総会が無事行われました。

金沢支部では例年総会後に、卒業生の講演会があります。今回は能美市の竹本敏晴氏(昭和45年農業科卒)が、「臥薪嘗胆で米作り」、米作り日本一「二代奮戦」と題して講演しました。

また、会場には本校特産のクッキー・イチゴジャム・ゴジャム、梅ジャム等が販売され、学生時代を思い出させてくれました。



事務局だより

〈本部〉

会計監査

5月30日(月)本校

理事会・総会

6月11日(土)グランドホテル松任

〈支部総会〉

〔金沢支部総会〕

7月2日(土)金沢都ホテル

藤田校長、上登実習教諭出席

〔関西支部総会〕

10月20日(木)日本料理和楽

藤田校長出席

〔東海支部総会〕

5月28日(土)ホテルサンルートプラザ名古屋

藤田校長

〔関東支部総会〕

11月20日(日)主婦会館プラザエフ

藤田校長、田端教諭出席

お祝い

防衛大臣就任 一川 保夫氏

県会議員就任 吉崎 吉規氏

白山市議会議長就任

藤田 政樹氏